

聖母の被昇天

福音朗読 ルカ 1・39－56

2022.8.15

カトリック高円寺教会 11:00 ミサ

主任司祭 高木健次神父

今日は聖母の被昇天の祭日のごミサをお捧げしています。マリア様が地上の生活を終えたのちに直通で、身体も魂も直通で天国の栄光に入れられたということですが、天国に直通で入るというのは空間の移動ではなくて、神様との完全な一致の恵みに迎え入れられる、そういうような意味です。そして天国に入ったマリア様は、「ああ、もうこれですべて大変なことが終わって、あとは天国でゆっくりする」っていうことじゃないわけですよ。今もいろんな中で、マリア様はご出現の姿、涙を流している、あるいは人類のいろんなことに対して心配している、そういう姿のご出現の出来事が報告されたりしますが、今度は天国ですね。地上のときには、自分が出会った人、自分が知ることができる範囲という人間としての限られた、でも、神様との一致の中ですべての時代のすべての人、罪に苦しむ人類に対して心を向ける。だからある意味で天国っていう状態は喜びもありますけども、悲しみや苦しみは深いはずですね。すべての人の苦しみや悲しみを自分のものとして担う。だから、マリア様の聖心とイエス様の聖心と、イメージ化すれば、両方とも愛には燃えてるけど、でも血がだらだら流れている。人類の罪への苦しみを担っていらっしゃる。だから、本当の意味では、神様と共にすべての人のために悲しむ、それが天国の栄光に迎え入れられたマリア様の姿であります。

でも、やはり当然それだけではない。なぜなら、神様との完全な一致というのは、最後には神様がすべてを完成してくださるということを経験し、そして、その希望によって支えられている状態だから、片や、神様との完全な一致、神様がすべてを完成してくださるという喜びの内にあると同時に、片や、時間の中で、今もいろんな形で、自らの罪の内に苦しみまた傷つけあう人類の一人ひとりの苦しみや悲しみを自分のこととして担うという大きな辛さの中にある。それが天国のマリア様の姿です。

わたしたちも、この聖母被昇天のごミサに参加して、そして被昇天のマリア様が与えられたその恵みに与ることを神様に願う、そういうためにこのごミサに与ってますけども、被昇天のマリア様のこの恵みをわたしたちも願うならば、やっぱり同じよう

な状態に招かれる、神様との完全な一致の内に。神様との一致するゴールから今を見
るという恵みです。

だから、この聖母被昇天の恵みを願う、聖母被昇天の恵みに与ろうとする者は、自
分の与えられている今の幸せの中に留まってはならないわけですね。そこではなくて、
神様と同じ視点を持って他の人々のいろんな苦しみに関心を向ける。と同時にまた、こ
の聖母被昇天の恵みに与ろうとする者は、自分が今体験している辛さとか苦しみとか
試練の中に留まってはならないこともまた一つですね。そこではなくて、神様がすべ
てを完成してくださるというその希望の、そこから今の状態をもう一回見直す。神様
が完成してくださる、いつか分からないしどうなるか分からないとわたしたちは未来
のこととして見ているけれども、でも一回その天国の栄光から今の自分を見直す。そ
して、やがて完成される時に向かって歩んでいる、必要な道を歩んでいるんだとい
うことを確認する。それが、天の栄光の内に今の自分を見直すって言うことなんじゃな
いかなと思います。

わたしたちが苦しみにつけ、また与えられている幸せにつけ、とにかく自分の中に
留まるのではなくて、神様と共に、自分自身を見直しそしてまたマリア様と共に祈る
ように招かれている他の人々のいろんな思いのことに心を馳せながら、このごミサを
通して、マリア様がいただいている聖母被昇天の恵みの内に、わたしたちも部分的に
ではありますけども与りながら、信仰者として生きて行くことができるように、神様
の恵みに心を向けたいと思います。